

日本の民间传说～很久很久以前～

一寸法師

很久很久以前，某个地方住着一位老爷爷和一位老奶奶。两人没有孩子，于是向神明祈祷，终于得到了一个孩子。但是生下的孩子还没有手指长，只有一寸（约3厘米）大小。但即便如此老爷爷和老奶奶还是十分高兴，给孩子取名“一寸法师”，非常认真地养育他。

一寸法师的个子一直只有一寸长，但他成长得非常健康。后来有一天，一寸法师对老爷爷和老奶奶说：“我要去京城出人头地”，于是两人以碗为船，以筷子为桨，以针为刀，送别了一寸法师。一寸法师顺着河流向京都出发了。

抵达京都后，一寸法师发现了一间宏伟的大宅邸，他叩响大门说道：“我的名字叫做一寸法师，我想在这里工作可以吗”，宅邸的主人一眼就看中了一寸法师，于是准许他在这座宅邸工作。

主人有一位非常漂亮的女儿，有一天这位小姐外出去参拜神社。身体虽然很小但精力充沛行动敏捷的一寸法师，在外出期间作为小姐的护卫跟随小姐一同前往参拜。但是途中出现了一只想抓走小姐的鬼怪。

一寸法师拔出针做的刀刺向鬼怪，但奈何身体太小，被鬼怪整个吞了下去。但是进到鬼怪的肚子里后，一寸法师不屈不挠地用针刀一刀一刀地刺鬼怪的肚子。“好疼啊，好疼啊！”鬼怪痛得把一寸法师吐了出来，害怕地逃走了。小姐十分感激地说道：“真是谢谢你了。幸亏有你，我才能得救”。

鬼怪逃走时丢下了一个“万宝槌”，这是一个个要挥一挥就能得到想要的东西的不可思议的小槌子。举起小槌子一挥，一寸法师的身体一下子就长大了，并得到了很多金银财宝。后来，变成一个出色青年的一寸法师和小姐结了婚过着幸福的生活。



にほんむかしばなし 日本の昔話～むかし、むかし～

いっすんぼうし 一寸法師

昔々ある所にお爺さんとお婆さんが住んでいました。2人には子供がいなかったので、神様にお祈りしたところ、なんと子供が生まれました。しかし生まれた子供は指の長さにも満たない大きさで、1寸（約3センチメートル）ほどしかありませんでした。でもお爺さんとお婆さんは大変喜び、子供を「一寸法師」と名付け、大切に育てました。

一寸法師の背丈は1寸のままでしたが、元気に育って成長しました。そしてある時、お爺さんとお婆さんに「私は都に行き身を立てます」と言うので、2人は一寸法師をお椀の舟に乗せ、權の代わりに箸を、刀の代わりに針を持たせて見送りました。一寸法師は川を漕いで都へと向かいました。

都に着いた一寸法師は立派な屋敷を探すと、その屋敷の門を叩いて言いました。「私の名前是一寸法師。この家で働かせてくれないか」。すると屋敷の主人は一寸法師を一目で気に入り、この屋敷で働くことを許してくれました。

主人には美しい娘がいましたが、この娘がある時宮参りの旅に出掛けました。体は小さくても元氣一杯で俊敏な一寸法師は、旅の間娘の身を守る役目で、娘につき添って行くことになりました。ところが道中、美しい娘をさらおうと鬼がやってきました。

一寸法師は針の刀で鬼に向かっていきましたが、体が小さいので鬼に丸呑みにされてしまいました。しかし鬼の腹の中に入ると、一寸法師は負けじと針の刀で腹の中をちくちく突き刺しました。「いたたたたた！」鬼は痛くて一寸法師を吐き出すと、恐れをなして逃げていってしまいました。「ありがとうございます。あなたのお蔭で助かりました」と娘は大変感謝しました。

鬼は逃げる時「打ち出の小槌」という、打ち振れば願った物がなんでも手に入るという不思議な小槌を置いていってしまいました。その小槌を振ると、一寸法師はみるみる体が大きくなり、金銀財宝も手にしました。立派な青年となった一寸法師は娘と結婚し、幸せに暮らしたとき。